

オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会
(第 24 期・第 9 回)

議事録

1. 日時 令和元年 9 月 4 日 (水) 9:00－11:00

2. 会場 日本学術会議 2 階 大会議室

出席者(五十音順、敬称略): 安達 淳、喜連川 優、木村 学、永井 良三、
引原 隆士、村山 泰啓、渡辺美代子
オブザーバ参加:

3. 議題

1. 第 4 回および前回議事録確認
2. 情報提供 (永井委員)
3. 提言取りまとめ
4. その他

4. 配布資料

資料 1-1 第 4 回議事録案

資料 1-2 第 8 回議事録案

資料 2 日本の医療ビッグデータとデータシェアリングの課題 (永井委員)

資料 3 令和元年度予算執行状況

机上配布資料 1 経済学におけるオープンサイエンス (溝端委員)

机上配布資料 2 地球科学とオープンサイエンス・国際深海掘削計画の例
(木村委員)

机上配布資料 3 農業とオープンサイエンス: 精密農業 (スマート農業) の例
(澁澤委員)

5. 議事

1. (議事録確認) 第 4 回および第 8 回の議事録案を承認した。
2. (永井委員報告) 永井委員から、資料 2 に基づき日本の医学におけるオープンサイエンスの状況報告があった。主な点は以下の通り:
 - 臨床や人の生死までを含む視点で、医療データの収集や統計的手法の重要性を指摘したい。我が国では、データに基づいて判断するという文化が従来から弱かった。
 - 大規模な症例研究や病歴の調査は長い時間と経費がかかるがその結果として薬剤費の削減などに大いに寄与する。

- このような研究では、期間の限られる国主導の助成よりも、民間から長期にわたり研究費を得ないと長期にわたり継続できない。
 - 日本の文化的雰囲気から、一点突破全面展開をめざすロマンを重視したアプローチが好まれるようだ。今後、データに基づくアプローチに向けて、研究費配分や認識を変える必要がある。
 - ビッグデータの重要性は、(1) 現実の可視化、(2) 未来予測、(3) 分子、細胞検査の意味、(4) 仮説の設定、(5) 医学知識の構造化から AI への展開、(6) 産業応用などをあげられる。
3. (提言取りまとめ) 引原副委員長から提言取りまとめに向けた進め方等について説明があった。主な意見等は以下の通り：
- 提言執筆の元になる例として、三人の委員にそれぞれのご担当の執筆をお願いした(机上配布資料)。さらに林、引原、山地の三委員の三つの担当分をいっしょにしてテンプレートにいれて、提言の骨格を作りたい。
 - まず要旨を用意し、各委員にそれに沿って書いていただくというやり方はとりたくない。まず、委員に書いていただくというやり方をとりたい。
 - 山極先生、吉川先生および高木委員のお話をいれたい。
4. (その他) 今後の作業方針について意見交換し、次回開催日時は調整して決定することとなった。

以上